

令和7年度 特許情報普及活動功労者表彰

一般財団法人日本特許情報機構理事長賞 【特許情報技術研究功労者】

株式会社 AI Samurai 代表取締役
白坂 一

功績

白坂氏は横浜国立大学大学院でITを学び、富士フイルムに入社し、知的財産部門に配属されました。東日本大震災を機に「日本全体の知的財産を守りたい」と、富士フイルムを後にして特許事務所を設立しました。特許申請業務に携わる中で、裁判や訴訟に対して損害賠償額の国家間での不均衡を感じ、それを解消したいという思いから株式会社 AI Samurai (旧ゴールドアイピー) を起業されました。

同氏は AI 技術を活用した特許情報の調査解析に関する様々な研究を行い、AI と弁理士の協働による特許性判断、及び、AI と弁理士の協働による特許文書作成というテーマで博士論文等を執筆されておられます。そしてその研究の成果は『AI Samurai®』に実装され、①副引例候補の検索、②クレームチャート出力、③特許取得可能性のランク付けといった先進的なサービスの実現に繋がってきました。

また、同氏は、独立行政法人日本貿易振興機構 (JETRO) 協力のもと、Tech Crunch Disrupt SF 2019 (サンフランシスコ)、4Years From Now2023 (スペイン) にて発表を、2025 年の大阪大学との共同研究では、知財創造教育の新しいアプローチとして、デザイン思考と AI 評価を通じた創造性育成と知財意識の醸成に関する研究の報告を行いました。

同氏は、AI 技術を活用した特許情報解析等の研究開発を通じて、日本の知財活動の高度化と国際競争力の強化、教育面のいずれにおいても貢献をしてきました。

大変名誉ある賞を賜りました。心より感謝申し上げます。私は 2021 年より、AI による特許書類作成に本格的に着手しました。2022 年には経済産業省のグレーゾーン解消制度を通じて、AI による特許作成と弁理士業務の関係について一定の見解を得ました。あの時、他の先進諸国よりもより早く日本が AI 活用の知財立国になり得ると確信したことを今でも鮮明に覚えています。そして 2025 年 12 月、特許出願件数が大きく伸びるという歴史的な動きが生まれました。日本では長らく「特許は量より質」と言われてきました。しかし私は、量と質は対立概念ではない、良質な母集団 (量) があるからこそ、真に強い特許 (質) が生まれ、その両立を可能にする鍵が AI 活用であると信じていました。AI と知財の融合は、まだ道半ばです。これからは、賞に恥じぬよう、そして身の丈に合った誠実な活動を続けながら、日本の知財力向上に静かに、しかし力強く貢献していきたいと思っております。常に現場で支えてくれた播磨弁理士をはじめ、仲間たちに感謝いたします。ありがとうございました。

